



「グリーンチャイルドの休日Ⅱ」(1972年 99cm×80cm キャンパスに油彩)

もりおか啄木・賢治青春館 第76回企画展

# 橋場あや展 *Aya Hashiba Exhibition*

子供の街へのパスポート

平成29年7月15日(土) - 10月15日(日) 10:00 - 18:00 (最終入館 17:30)

もりおか啄木・賢治青春館 2階展示ホール 入場無料

\*毎月第2火曜日は休館(8月8日、9月12日、10月10日)

\*9月2日(土)、10月9日(月・祝)はコンサート開催準備のため正午より閉鎖

主催 | 盛岡市 / (公財)盛岡観光コンベンション協会

後援 | 岩手日報社 / NHK盛岡放送局 / IBC岩手放送 / テレビ岩手 / めんこいテレビ / 岩手朝日テレビ / エフエム岩手

盛岡タイムス社 / 岩手ケーブルテレビジョン / 朝日新聞盛岡総局 / 毎日新聞盛岡支局 / 読売新聞盛岡支局

問い合わせ先 (公財)盛岡観光コンベンション協会 企画管理部 (TEL 019-604-3300)



〒020-0871 盛岡市中ノ橋通一丁目1-25



# Aya Hashiba Exhibition



1

私は橋場あやの描く世界、作り出す作品にかぎりなく魅了されている人間のひとりです。橋場先生のことはTVのドキュメンタリー番組で共感覚をもつ画家として知り、その後、心理学の世界から先生を追いつけています。ごく少数の人々をもつ感覚体験、マイノリティ感覚者の世界です。橋場作品では、ときに音の世界がある種深い情感をともなって絵となっていきます。音楽や人工音からは抽象が、自然音からは具象が生まれてくる。「音を視る」だけではありません。感覚的映像の鮮明詳細な再現、対象への深い没入、思考・想像の身体化、他者の心身への深い共感と共鳴。共感覚、直観像、空想傾

性として知られる特異な感性が橋場作品の秘密をひも解くひとつの鍵になるのかもしれない。

先生のもとには不思議と異能の感性をもつ人々があつまってきます。先生が引き込むのか先生が引き込まれるのか。感性が鋭敏すぎるために困難を抱える人たちもそうです。先生と繋がることで、その隠れた感性はボーダレスアートとしてさまざまな境界を超えて解放されていきます。

先生はこれまで夥しい数の作品を残されてきました。その造形、色彩、タッチは橋場先生にとって選択の余地のない感性の必然です。いまもあふれるように創作活動が続いています。今回、橋場あやの絵がもりおか啄木・賢治青春館に展示され、その軌跡の一端を見ることができるとは、私にとっても大変幸せなことなのです。



2

岩手大学教授、認知心理学者 松岡和生



3

1. 「あしたⅢ」(2003年 73 cm×51.5 cm 紙にグワッシュ・インク・オイルパステル)
2. 「汽車の音」(2003年 18 cm×18 cm 紙にペン)
3. 「こども4」(2003年 50 cm×60.5 cm 紙にグワッシュ・インク・オイルパステル)
4. 「こども1」(1965年 115 cm×58 cm 紙にグワッシュ・オイルパステル)



4

## 橋場あや (盛岡市在住)

- 1956年 岩手大学学芸学部甲一類美術第一科卒業
  - 1969年 エコール・ド・エヌ入会
  - 1970年 第1回個展 いずみ画廊(二戸市)
  - 1971年 第25回岩手芸術祭知事賞受賞「グリーンチャイルドの休日」(油彩)
  - 1972年 第1回小泉賞受賞
  - 1973年 第27回岩手芸術祭芸術祭賞受賞「誕生」(油彩)
  - 1975年 第29回岩手芸術祭奨励賞受賞「9月」(油彩)
  - 1976年 第30回岩手芸術祭奨励賞受賞「黒い舟と白いこども」(油彩)
  - 1984年 岩手県優秀美術選奨受賞「誕生」
  - 1989年 母子造形教室「でむし舎」代表
  - 1996年 いわて・きららアート協会会長(知的障害者芸術協会)
  - 1998年 シバ塾(知的障害を持つ人の芸術活動支援)開塾
  - 2003年 個展 石神の丘美術館(岩手町)
- ほか個展、グループ展など活発に展開している。

## 橋場あやさんによるギャラリートーク

日時：7月29日(土) 14:00～

場所：もりおか啄木・賢治青春館2階展示ホール



Twitter Facebook



TEL&FAX 019-604-8900  
<http://www.odette.or.jp/seishunkan/>  
 E-mail: seishunkan@odette.or.jp

